

述べさせていただきます。

A 氏の意見にありましたが、各地区

のなかで自己の特殊問題を生かす道も発見されてくると思います。

の共同研究のグループの結成を特に望みます。農地改革というような従来の社会学の知識だけではなく、どうにもならない困難且広範な題目にぶつかった場合には、とくに我々若輩の個人的研究では問題の焦点をつけないので、(農地委員の中央への報告書通りの報告に終つたり、技術的な問題の報告に止まつて了ります)しかし、この場合共同研究のグループへの参加は、なんの心理的なテンションを感じさせないほど希がれたものであつてほしいのです。

タループが始終顔をあわせていろ者だけで個別的に作られるのではなく、各支部が一タループになるのは広すぎて有名無実なものになりがちなら、幾つかに分れるが、すべての者がいずれかのタループに必ず所属し、おたがいに決定した題目について始終研究会が開かれるようになつたらと思います。そうすれば題目が既定されても参加困難になることもないし、既定された題

高倉氏の意見にもありましたが、村研の大会がもつと行えないものでしようか。少くとも春と秋、年に二回位はほしいと思います。そうすれば一回の報告者の数を減らすというB氏の意見も実現できるでしょう。

(高崎市立大学)

宿題と大会についての希望

島崎 樹

大会特集号に発表された種々の感想、とくに二つの意見のなかにみられた夫々の提案に対して、歎感的にも性格的にも特殊な学校における私なりの希望を